

2024 年度 第 3 回土木学会 原子力土木委員会
議事録（案）

1. 日時：2024 年 12 月 20 日（金）13:00-17:00
2. 土木学会講堂+Teams ミーティング
3. 出席者（委員および委員兼幹事）：中村（晋），高田，大鳥，天野，両角（岩森代理），
大熊，大島，尾崎，小西（國西代理），酒井（俊），関本，高橋（一），谷，
土，戸田，松尾（河井代理），松崎，三島，森，藤本，溝上，原口，吉村，米
山，佐藤，篠田，冨尾
（顧問）上田，蛭沢，奥田，坂井（公），酒井（久），西，丸山
出席者（幹事）：中島，両角，和仁，中村（武）
出席者（常時参加者）：松村，木原
出席者（オブザーバー）：山崎，松尾，山口
出席者（事務局）：飯野

配 付 資 料

資料番号	資 料
資料 24-3-01	委員名簿（令和 6 年 12 月時点）
資料 24-3-02	2024 年度第 2 回原子力土木委員会議事録案
資料 24-3-03	技術文書審議タスクの活動状況
資料 24-3-04-1	成果報告書の作成等と標準化に関わる運営内規改正 趣旨・目的説明
資料 24-3-04-2	成果報告書の作成等と標準化に関わる運営内規改正案・運営内規改訂案
資料 24-3-05	津波評価小委員会 活動報告
資料 24-3-06	リスクコミュニケーション小委員会 活動報告
資料 24-3-07	地中構造物の耐震性能照査高度化小委員会 活動報告
資料 24-3-08	複合災害下での原子力防災に関する研究小委員会 活動報告
資料 24-3-09	令和 6 年度土木学会全国大会における研究討論会報告
資料 24-3-10-1	第 VIII 分野連携の活動状況報告
資料 24-3-10-2	地盤の過剰感激水圧上昇と消散に伴う変形の評価に関する小委員会-合同 小委員会の活動報告-
資料 24-3-11	原子力土木委員会次期委員長選出に係る手順・スケジュール案
資料 24-3-12	公開講演会日程案
資料 24-3-13	年間スケジュール

4. 議題

13:00-17:00 委員会（主な説明者）

- 0) 開会挨拶（中村委員長）
 - 1) 前回議事録の確認（中島幹事長）
 - 2) 技術文書審議タスクの活動状況（篠田幹事）
 - 3) 原子力土木委員会 成果報告書の作成等と標準化に関わる運営内規改正
 - (1) 趣旨・目的説明（中村委員長）
 - (2) 改正案説明（中村委員長・中島幹事長）
 - 4) 令和 6 年度土木学会全国大会における研究討論会報告（佐藤幹事・松村小委幹事長）

- 5) 第 VIII 分野連携の活動状況報告と確認（富尾幹事）
- 6) 地震工学委員会との合同小委員会活動報告（中村委員長）
- 7) 小委員会からの活動報告（津波／リスクミ／地中構造物／原子力防災小委幹事長）
- 8) 原子力土木委員会次期委員長選出に係る手順・スケジュール案（中島幹事長）
- 9) 公開講演会の日程について（中村（武）幹事）
- 10) 年間スケジュールの確認（中村（武）幹事）
- 11) 閉会挨拶（高田副委員長・大島副委員長）

5. 議事録

0) 開会挨拶

中村委員長より、「土木学会が10年ごとに活動取り纏めを行い、原子力土木委員会も2015年から2024年の10年の取り纏めを行いました。この10年は調査研究活動と併せまして、3.11事故に対する国会事故調への対応を行ってきました。最近4年間においては、技術文書審議において、公正・公開性をもって取り組みを実施してまいりました。地盤の小委員会、地中構造物の小委員会では試行、津波の小委員会では適用にご協力いただきました。調査研究活動の現状を見ると、現在原子力土木委員会で活動している小委員会は4つです。前年度の6つに比べると、2つ少なくなりましたが、地震工学委員会との連携も行っています。来年度は更に1つ少なくなる可能性があります。一方、自主的に設置した小委員会は、リスクコミュニケーション小委員会と原子力防災小委員会の2つがあります。原子力土木委員会の活動として初めて、リスクコミュニケーション小委員会が単独で土木学会全国大会の研究討論会を実施し、成果を土木学会論文集に投稿するなど確実に成果を上げています。これらを通じて、学会が何をなすべきか明確になったと感じています。最後に原子力土木委員会の活動は原子力分野におけるニーズや発電所の安全に関する規制要求によって変化していきますが、委員会内に設けている技術普及多様化も含めて今後の在り方について検討が必要と考えます。本日は、技術文書成果報告書の作成等と標準化に関わる運営内規改正をはじめ、小委員会の活動、第VIII分野としての活動報告・審議を行っていただき、公開講演会は1月17日に実施することとして、十分な審議報告時間を確保していますので、よろしくお願いしたい。」との開会挨拶があった。

1) 前回議事録の確認

中島幹事長より資料 24-3-02 に基づき、前回議事録（2024 年度 第 2 回 原子力土木委員会 議事録）を紹介し、内容について承認された。

2) 技術文書審議タスクの活動状況

資料 24-3-03 に基づき、篠田幹事の方から技術文書審議タスクの活動状況の報告がされた。

中村委員長より、「地中構造物の技術文書について、小委員会の技術文書の審議を終えて、12月26日に技術文書審議タスクを実施し、技術文書の妥当性評価と意見集約を行う。それを踏まえて、1月10日に第4回の原子力土木委員会をオンライン開催し、技術文書審議タスクの評価の妥当性を審議いただきたい。」と提案があり承認された。

3) 原子力土木委員会 成果報告書の作成等と標準化に関わる運営内規改正

中村委員長より、資料 24-3-04-1 に基づき、原子力土木委員会成果報告書の作成等と標準化に関わる運営内規改正の趣旨目的を説明し、手順の見直しと体制の見直しを同時に実施するのは、厳しいということで、今回は手順の見直しについて議論を行いたいという提案があった。

その後、中村委員長及び中島幹事長より資料 24-3-04-2 に基づき、原子力土木委員会成果報告書の作成等と標準化に関わる運営内規改正案を説明し、内容について以下の質疑応答があった後、承認された。

Q：今回簡素化に関しての提案で、体制については別途ということだが、体制について、公衆審査も技術文書審議タスクから離れて、委員会として行えばいいと思うが、そういう議論は別途やるということか。それは1年後とかということか。

A：幹事会の中での議論では、体制についてはもうちょっと議論が必要ではないかということであった。原子力土木委員会の体制が5月に代わるということもあり、次の委員会までには検討しようということ。

C：来年5月に体制が代わる話とは全く関係がないので、現体制で案を作った方がいい。

4) 令和6年度土木学会全国大会における研究討論会報告

佐藤幹事より、資料 24-3-09 に基づき、令和6年度土木学会全国大会における研究討論会について報告があり、以下の質疑応答があった。

なお、来年度の研究討論会をどうするかについては、3月の応募締め切りまでに幹事団で議論していくことで、承認いただいた。

Q：情報発信を積極的にしていくとあるが、原子力のことをマスコミがいいように取り上げてくれるとは思わない。SNSを使ったような発信を考えないと、いい情報だとしても伝わらない。

A：発信していくには、コンテンツをどうするかという点と、土木学会として様々

な問題について取り組んでいるので、どういう風に発信していくのがいいか、リスクコミュニケーション小委員会の中で検討していきたい。それを踏まえて原子力土木委員会としてどうすべきか考えていきたい。

5) 第 VIII 分野連携の活動状況報告と確認

冨尾幹事より、資料 24-3-10-1 に基づき、第 VIII 分野連携の活動状況報告があり、以下の質疑応答があった。

Q：連携というよりは、共通の目的を持って、何が足りないのか現状認識を合わせるといふことと目標をどうするのかというのを考える必要がある。一つのキーワードは SDG s かなと思っている。

A：いただいたキーワードを含めて、お互いの課題意識の共通化を図りたい。

6) 地震工学委員会との合同小委員会活動報告

中村委員長より、資料 24-3-10-2 に基づき、地震工学委員会との合同小委員会活動報告について説明した。

7) 津波評価小委員会 活動報告

木原常時参加者より、資料 24-3-05 に基づき、津波評価小委員会の活動報告があり、以下の質疑応答があった。

Q：東京電力が正式に津波 SSHAC をやりますということで、まさに今期実施する確率論的なリスクの話とかは、津波 SSHAC の大きなテーマとなる。津波 SSHAC で最先端の議論をするときに、成果が公開されていないとか形式論的な議論で使えないというのはもったいないので、適宜成果を外部発表していただきたい。

A：津波小委員会では外部発表をコンスタントに行っているんで、成果がまとまり次第論文発表を行うように取り組んでいき、SSHAC の方でも参照できることを意識しながら進めていきたい。

Q：地震以外に起因する津波について取り組むということだが、実際に取り纏めを行う幹事等に地盤の専門家は入っているのか。

A：幹事としては、地盤の専門ではないが、委員メンバーとして海底地すべりの専門の山口大学川村先生に入っていていただいてご助言いただくこととする。

8) リスクコミュニケーション小委員会 活動報告

松村常時参加者より、資料 24-3-06 に基づき、リスクコミュニケーション小委員

会活動報告について説明した。

9) 地中構造物の耐震性能照査高度化小委員会 活動報告

松尾オブザーバーより、資料 24-3-07 に基づき、地中構造物の耐震性能照査高度化小委員会活動報告について説明した。

Q：地盤の方で液状化の検討を行っているが、取水構造物における立坑の検討に活用可能なのか。

A：本研究成果は、三次元的な地震応答を示す立坑などに液状化が生じる場合における合理的な耐震性能照査に有効である。ただし、構造物の小委員会なので、すべてを網羅できるわけではなく、「地盤の安定性評価」等は事前に実施されていることを前提として、地盤の小委員会の成果などを活用しながら構造物の評価を行うことになる。

10) 複合災害下での原子力防災に関する研究小委員会 活動報告

中村委員長より、資料 24-3-08 に基づき、複合災害下での原子力防災に関する研究小委員会活動報告について説明した。

中村委員長より、リスクコミュニケーション委員会と複合災害下での原子力防災に関する研究小委員会の活動費について、原子力土木委員会の方から支出することが提案され、承認いただいた。

11) 原子力土木委員会次期委員長選出に係る手順・スケジュール案

中島幹事長より、資料 24-3-11 に基づき、原子力土木委員会次期委員長選出に係る手順・スケジュール案について説明し、このスケジュールで進めることで承認いただいた。

12) 公開講演会の日程について

中村（武）幹事より、資料 24-3-12 に基づき、1 月 17 日に開催予定の公開講演会について説明した。

13) 年間スケジュール

中村（武）幹事より、資料 24-3-13 に基づき、今後のスケジュールについて説明した。

14) 閉会挨拶

高田副委員長より、「毎回ですが長時間皆様ご苦勞様でした。原子力土木委員会

は、福島事故を受けて非常に重要なミッションを担っている大事な委員会ということで、いろいろなことを注視して行わなければならないけど、うまく行っていたので、外に出しても恥ずかしくない状況となっているのでこのまま進めていただければと思います。全体で、それぞれの活動がどのように繋がっているのか大変興味がある。いい形で、連携という言葉がありましたが、うまく進めていければと思いますので、よろしくお願いします。」との閉会挨拶があった。

大鳥副委員長より、「本日の審議は無事終了しまして、ありがとうございます。本日は、成果報告書の標準化に関する話と各小委員会の活動報告を主体に進めてまいりました。本年も委員・幹事の努力によって確実に成果を出しているのではないかと思います。特に、成果報告書の標準化に関しては、だいたい固まったので、今後はこれを基にして省力化を図っていければいいと思います。成果報告については、今回の標準化によって、見えるかできたのではないかと思います。省力化は今後の課題と認識しています。」との閉会挨拶があった。

以 上